

聖句

縁起なるものをわれわれは空と説く。それは仮に設けられたものであって、それはすなわち中道である。(中村元訳)

龍樹

【中論】

# 眞生

第80巻 482号

<http://canchiin.net>

1・4・7・10月15日発行

【発行所】

眞生同盟本部  
〒105-0011  
東京都港区芝公園  
2-2-13 観智院

【振替】

00160-6-80674

【電話】

03(3431)1450

【Email】

shinsei@canchiin.net

【編集兼発行人】

土屋正道

会費 年額 2,000円

一部 100円

香語  
ここに、無常迅速、会者定離の理を身を以て示されし、多聞院寺

観道上人

多聞院第二世土屋観道上人、美和夫人の長女として生を受け、長じて港区役所に奉職、職場の同僚佐藤孝氏と結婚、孝氏は観道上人の弟子となる。美智どのの弟・第

美智子に

何ごとも 我をはなれて みにつけ  
けわしき坂の よしあるにせよ

庭婦人俗名佐藤美智どの、行年百一歳(満九十九歳)を以て人間界の寿命尽く。

多聞院第四世 佐藤孝隆上人御内室  
秀麗院浄譽慈心妙智大姉  
令和三年一月三日 逝去 佐藤美智 九十九歳



多聞天 奈良・法隆寺

三世光道上人より多聞院を引き継ぎ、第四世孝隆上人夫人として多聞院を護持、共立薬科大学学生寮の運営にあたられる。また眞生同盟主幹の観道上人・光道上人を支援、孝隆上人は会計を担い、美智どのの特に機関紙『眞生』編集の重責を担う。頭脳明晰にして記憶力に優れ、温厚篤実な人柄は、多くの檀信徒・眞生同盟会員、共立薬科大学生にも慕われた。  
高校卒業で港区役所奉職の後、東京都の公務員試験で二番の成績を残す。土屋家で最初にワープロを使いこなしたキャリアウーマンで、女性の地位向上、社会福祉の充実に尽力し、男女平等参画実現の拠点ウイメンズプラザや、社会福祉事務所にも関わった。  
優秀で、美しく、淨らかな性格、誰に対しても慈悲の心を持ち、妙なる智慧をもって念仏弘通に努めた功績を閲して、法名  
秀麗院浄譽慈心妙智大姉と授与す  
令和三年一月三日に人生を閉じら



れ、極楽浄土に往生される。

産みのみ親、育てのみ親、教えのみ親、三身即一に在します、いと尊き唯一の如来よ。永遠の生命と無限の向上を与え給え。極楽浄土で、観道上人、美和夫人、孝隆上人はじめ多くの方々に迎えられ、仏果を増進されるよう祈念したてまつる。

維時令和三年一月九日

眞生同盟主幹 多聞院五世  
観智院二三世 信譽正道

新型コロナウイルスの影響に鑑

み、通夜(八日)葬儀(九日)は親族のみで執り行い、徒弟や一般の会葬者はリモートでの参列となりました。

通夜式は『眞生礼拝儀』にて、葬儀は浄土宗日常勤行式を中心に勤め、美智の意向であった「三尊礼」を全員で称えました。

伯母である美智が誕生したのは

大正十年観道上人三十四歳、前年十二月四日山崎弁栄上人遷化しています。観道上人法話集『大悲に生きる』には、中島観琇上人の囑により多聞室住職に晋山。日魯漁業社長堤清六氏の寄進により、神田駿河台(明治大学隣、主婦の友社前)に説教所「光明会館」を開設、如来中心主義の看板を掲げる。宗教大学生中野善英氏入所する。自由倶楽部と称し、大衆の自由聴講を勧誘。このころ宗教大系を図式化した大宝曼荼羅を完成、眞生主義を提唱す。8月長女美智子誕生。と記されています。師を失った悲

しみから立ち上がり、眞生主義の旗を掲げた年に授かった長女。観

道上人美和夫人の希望の星であったことでしょう。草創期から眞生同盟を見守り支えた生き証人が静

## ひなまつり(昭和四十五年三月号)

佐藤美智子

「今日は三月の一日で普通のう

ちならば学寮でもヒナ祭りがあることであろうにと、私の心は唯今学寮のところに来ています」

こうした書き出しで、大正十一年(一九二二年)三月一日付、母

あての手紙が残っています。伝道の途中京都百万遍知恩寺に住職の中島観琇老師をお見舞し、そこで認めたもので、三月一日午後十一時二十分と記してあります。

「人形のヒナよりも、美智子ちゃん自身をして生きたるままにお祭りをするのが私どものほんとうのヒナ祭りでなければならぬ。」

かに人生を終わられました。今から五十一年前、観道上人一周忌に

書かれた文章を再録し、これからの眞生同盟の発展を祈念したいと思えます。

今日はよき日よ ヒナまつり

みち子の君のヒナまつり

上なき幸をことほぎて

まつる心や 尊としな

今日はよき日よ ヒナまつり

ヒナ飾りする心もて

みち子の君をそのままに

祝う心ぞ うれしけれ

今日はよき日よ 上となき

みち子の君の初ヒナの

祝いのための今日なれば

静かに祈る父君の

心も今は嬉しけれ

今日はよき日よ ヒナまつり  
みち子の君の初ヒナの  
祝いの今日ぞ嬉しけれ

こうして歌うその時にも、美智子ちゃんの可愛いその姿や、その母様の御姿もともどもに喜びの中にあります。今頃にしてもし我が父母のましまさば、上なき喜びを受けてしものならんなど、心から二親を思い出し、やがては麻布の方、母君でもと（麻布の実家には母の父だけがおりました）私の心には今更のように思い出されてなりません。

こうして如来を中心に神人の生活に生きゆく我等の莊嚴さ、やさしき心と雄々しき心と実生活の是認をそのままに、理想実現の中心に進みゆくこのよろこびを喜ばずにはいられません。妻を捨て、子を顧みぬ宗教でなくて、妻子と共に生き行きて、そのまま進む向上の和楽の世界、そこが私どもの真実の世界であります。（後略）



葬儀

父が亡くなる二、三年前、古い手紙の中から母が私に出しておいてくれたので、大切に藏っておいたのですが、今となつては、父の愛の形見として、それこそ、上なき宝といえましよう。  
こんなに愛して貰ったのに、そしてまた妻子ともども進む、神人の家の理想に燃えていた父に、私は一体何をもつて報いたのでしょうか。  
小さい時は「如来様の子だから、いい子にならなくてはね」と諭さ

れたのが、だんだん成人するに従い「宗教家の娘として、こんなこと位わからんでどうするか」と叱責されるようになってくると反抗期も手伝つて、プイと背いたことも何度かありました。  
美しく着飾り、何の屈託もないお友達にくらべて、何かと束縛の多いような気がして「何で宗教家の家になんか生れたのかしら」と恨めしく思ったことも度々ありました。

父は私が生れた時、直に白衣に包んでお三宝にのせ仏前に供えてお念仏をしたそうです。父からもよく云われましたまたその時お産の手伝いに来ていた伯母（母の姉）からも「赤ん坊が生れたお目出たい時にお念仏をするなんて、それも生ればかりの娘を仏様にお供えするなんて、まあ縁起が悪い。変ったことをする人だと思つたね」ところが今、信仰に入らせて貰つてあの時のことを考えると、本当にそうだ、真先に如来様にお礼を

申し上げ、最愛の我が子が本当の人生を送れるようにと如来様にお供えして祈っていた土屋さんの心がよく解るよ」と度々話してくれました。  
叱る時以外は我子と云えども、

叱る時以外は我子と云えども、  
〇〇ちゃん、〇〇さんと呼んで決して呼び捨てにはしなかった父、今思えば賞められたことも、叱られたことも、なつかしく有難く、天を仰ぎ、地に伏しても感謝し切れぬ思いで一杯です。

父の恩愛に、何を以て報いることができないでしょうか。残り少ない生命の限り、慈光宣伝のため光道さんが中心となつて思う存分働けるよう、微力ながら尽くしたい。また少しでも社会のために職業を通してお役に立ちたい。

ささやかな願いで父から苦笑されそうですが、父の一周忌に如来様の前で誓つたことでした。

# 『宗教の本質』

(三) (昭和十年九月発行)

土屋 観道 上人 (眞生同盟初代主幹)

(承前) 尚、この宗の三義を判り易くするために人と家と国と宇宙とを並べて宗の意を明らかにしてみたい。

今これを図についてその大意を申しますと、ここに一つのもの相があれば、それには必ず体(人、家、国、宇宙等)がある。物には必ず、それに相応する働きがある。これを用という。これは全体と部分との関係において。全体の中心と部分の中心との関係である。総て物には、名が付いている。そうして多くの場合、その体と用とによって、名が付けられる。さらにこの体、相

用の中心には、自ら一つの宗というものが成り立ってくる。即ち独尊、統撰、帰趣の三徳を含んだものが、一つの相の中に必ず出来ているのであります。

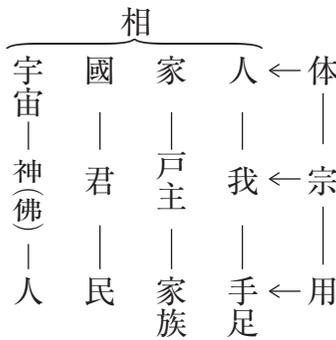
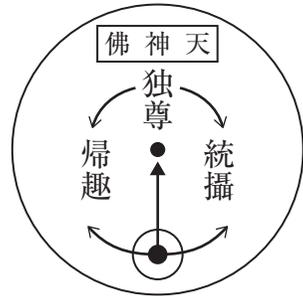
今便宜図について国を全体から

これを眺め見ますと、国という名に国体というものがあって、国体にはその中心を占める獨尊に立つものがあるのであります。所謂国家の中心位を占めるものは一國の獨尊であります。獨尊は一國の宗である。故に宗は唯一である。世に天に二日無く、地に二君無しといはれる所以であります。

一國の元首となつて、その国家を統撰し、帰趣せしめるのであります。いかなる國でも、國には必ずこの宗なるものが立たねばその國は治まるものでない。宗には統撰が必要である、統撰はその國の主権といつてもいい。多くは法律によつてその國を統一する。それと同時に帰趣の徳として、獨尊はその國民に対するに慈悲を以つてする。しかして國民は、その獨尊の地位に立つ主権にしたがい、そ

の地位に立つ主権にしたがい、そ

大我と小我との關係



の徳に懐いていくのであります。

獨尊は神聖にして冒すべからざる一國の総主である。統撰は万民の正統の正義であり、帰趣は万民の恩寵であります。この神聖と正義と恩寵とが、獨尊、統撰、帰趣となる。この組立を完全に備えたものが即ち完全な國体であります。

す。

幸にして、我日本の國体は、万世一系の聖天子が中心とならせ給い、帝國生命の中心をならせ給うております。即ち我が日本帝國は、神代の昔から、絶体にして冒すことのできない連綿たる皇統の下に最高至善の陛下が天皇の大御位に即かせ給うていらせらるゝのであります。

何事も時所位と云つて、時と所と位と云うものは大切なものであります。就中位というものは非常に大切なもので、この位がなければ、何事も出来ないものであります。陛下は一面には、ただの人としての御相であらせらるゝが、実は、神聖にして冒すべからざる天皇に在しまして、正義の道に立つて、我々國民を総覧し給い、また無限の愛を以つて、無限の慈悲を國民に垂れさせ給うていらせられるのであります。即ち我國にここに立派な獨尊、統撰、帰趣の三徳を円満せる「宗」が成り立っています。

るのであります。

これを一家に申しまして、やはり相、体、宗、用がある。即ちその家の中心生命となるべき独尊(宗)は戸主であります。戸主はその家族全体の代表であり、中心であり、生命であつて一家を道で以て統攝し、一家を慈愛を以て導いている。だから完全な家庭では、家族は戸主の命する所に信服し、また戸主の慈愛になつてゐるのであります。

またこれを一個の人について見まするに、その人の中心生命は我である。手足や耳、鼻等がただ集まつたのが人ではない。それ等が有機的に統一せられたもので、しかしてその中心になつてゐるのが我であります。この我は一面から云えば何にも代え難いものである。そうしてこの我は自分の思う通りに自分の手足を使用する。その代り我はまた手足に対して出来るだけの恵みを垂れてゐるのであります。従つて、ここにも人としての宗が

あつて、独尊、統攝、帰趣の道理が行われているのであります。

しかしこの宗は、単に人と家と国計りでは無い。一個の団体がそこに出来る、必ずそこにも一団の長というものが出来てくるのであります。例えば青年会には青年会長、村には村長、県には県知事、クラスには級長、学校なら校長、連隊には連隊長と云う風に、その集団の長となるものが、その団体の中心になつて、道と愛とを以て、これを治むるのであります。従つてその団体に属するものは団長の命に従い、その愛になつて、これに信頼するのであります。それにはこの中の一つが欠けても十分でない。愛のみが深く、正義を欠くと統一が付かないでダラシなくなります。またこれに反して慈愛を欠き、ただ正義の一方のみで厳格に過ぎると、実に殺風景なものとなつて、心から心服する事が出来ないと言ふ事になるのであります。(続)

## 『宗祖の皮髓』成立をめぐる ―浄土宗義と光明主義― (三)

(『浄土宗学研究 昭和五一年度第九号』より)

土屋 光道 上人(眞生同盟二代主幹)

(承前)

三、その後の事情

この講習会における講演を機会に、浄土宗門内に弁栄上人の理解者・同調者が増えたことは確かであつたと推察される。その一例証としてこの翌年の大正六年三月一日より七日まで、祖山知恩院勢至堂において第一回の別時三昧会が開催された。これは笹本・浅井・土屋三師の発願になるものであるが、導師は、中島観秀老師と山崎弁栄上人であり、以来回を重ねて、上人滅後の翌十年迄毎年開催された。しかし、理解者が増え、弁栄上人を中心とする光明会運動が次第に盛行となり、在家にも多くの信者が増えるにつれて、その一方で批判者・非難者も一層ましたこともいふべき。

次の書簡(7)は、唐沢山阿弥陀寺で別時三昧の厳修中の父観道に宛てたもの、一部であります。(句読点筆者)

御書中、椎尾博士に聞く処、光明会の閻統云々。

世の未だ眞実に宗教の生命を信認すること能はざる輩、宗教を唯渡世營業の様におもふて只甘く世を渡るのが幸として居る族は、新光明宣伝者の精神生活の内容を窺測すること能はず、進んで自己の主義と信仰とが確立せぬ者は、唯他人の道業また宣伝の妨害を以て自ら快と為す。是即ち悪魔の眷族なり。蓋し古今新しき道の伝道者は比の悪魔の妨害は予期せざるべからざることと存候。しかしながら彼等は只他を中傷し得得たる為

のみにて、自ら主義と目的とのあらざれば、いつかは雲霧のごとく消失せるものに候へ。

光明会の観仏に紛らはしき云々。是に就ては、観仏と見仏の区別が分らぬ為にして、此に就ては従来念仏者と光明主義とは其の動機に於て大に異なる処あり。彼らは極楽の樂を貪る為に念仏を申し、たとひあみだ仏の不在にても、極楽にいきて樂を得たくしてねがふ往生の為の念仏にて、此は絶対人格の弥陀愛樂の動機、弥陀の大慈悲に對面す処に、弥陀より引出される念仏にてあり。

彼らの念仏の動機は、実は真面目に考れば、念仏往生の疑ひの生ずるのが返つて当然となりとおもふ。いかにとなれば、此闇黒の罪惡の凡夫が口に称名したとて、其力にて斯まで万善万華の浄土に往生するとはあまりの冥加に、左様な事はいかがであるうかと疑はるるが、実は無理もない事とおもう。若し我らが心靈は、本絶對なる

如來の性を受けたるにてあり。然れども肉の動物性に覆はれたる靈性はいまだ開顯せざれば、大なるミオヤは我らを絶對の光明界に攝取せんが為に、靈格なる無量光如來に現じて我らが心靈を攝取したもふ。例へば太陽の光明に我らが

肉体を照して活し玉ふが如く、靈界の無量光如來は無量の光明にて我らが心靈を摂化したもの。我らは光明の名号を稱ひて常恒に弥陀を離れず、現に弥陀の光明に開發され靈化されつつあり。其大光明に育らるる時は、我らは光明中の生活となり、現には理想の光明中に生活し、報土に參る時は、従來の理想界は現實界として實在の涅槃界となる。斯の如の信仰は道理のわかる人ならば信じらるべしとおもふ。

一は只極樂往生の念仏と、一は無量光如來絶對人格の名を稱ひて大光明に靈化せられて光明界の人となる為の念仏にて、彼と此との

所以なりとおもふ。彼らは樂を為させたくて只いるのが弥陀の本願と安心を定め、此は大光明の内に攝取同化せらるるを本願と信ず。何れも對機の法なれば遇て非難すべきにあらずと存候。

以上、自らの光明主義の安心と旧來のそれとの違いを述べつ、敢えて問題にしない態度をとつておられる。又別の書簡(8)には

第三期浄土報の興行は吾等同胞の責任かと存候へば、全力を尽さざるを得ぬ事と存候。

と、善導大師と法然上人につぐ第三期の浄土教顯揚の自負と責任とを語つておられる。

ここに弁榮上人は、当時の異安心視する人々に対して、一々相手にせず、より広く高い立場に立つて、浄土教というものの、ひいては法然上人、さらには自己の光明主義を主張するという基本的姿勢を

貫かれた。宗教の本質が生命そのもの、営みである限り、生命の本質は変わらずとも、当然宗教は進化した発展の段階をたどることを信じられ、その第三期の形態を予想しておられたことが窺われる。

しかしながら、これで異安心問題が解消してしまつたわけでは決してない。大正九年末の上人滅後も、光明主義に對する批判や非難は依然続いたのである。(9)

宗門においても、或者は之を異端視し、ある者は却つて導空二祖の真意を開顯するものとして渴仰する。何れが是、何れが非なるか宗侶の多くはその去就に迷い、宗務当局も徒らに孤疑して裁断を遷延した。その間、光明主義は全国各地に別時念仏を開發して青壯年層に深き信者を獲得、次第に教線を擴張していった。こうしたいわゆる世間の新興宗教の如き勢いに、宗務当局としても座視し得ず、宗儀上の混乱を收拾すべく、浄土宗宗務所主催の「布教要義研究会」

なるものが、昭和五年一月に三日  
間芝の妙定院で開かれた。一般よ  
り、望月信亨、椎尾弁匡、矢吹慶

輝、松崎賢定、桑門秀我、岩井智海。  
光明会から、笹本戒淨、藤本淨本、

熊野宗純、土屋觀道、宗務当局か  
ら、渡辺海旭、柴田玄鳳、神谷秀端、

原田靈道の諸師が出席した。そこ  
では、申合せとして「宗乘闡明の

根本精神として宗祖を中心とし、  
教化の基準を一枚起請文に多く」

「各種の信仰運動は互に協調を主  
眼とし教化の統一を期す」(10)等が

なされたが、結局、「光明会と二  
祖三代を重んずる伝統派との間に

かなりの意見の相違があった」(11)  
という結果に終ってしまった。

また、光明会の内部においても、  
弁栄上人の滅後、会の発展ととも

に、その指導者の間に浄土宗義と  
の関係、さらには光明主義それ自

体をめぐり意見の相違がみられる  
ようになり、その解釈と主張を異

にする流派を生むにいたった(12)。  
すなわち、師説をめぐり光明会自

体の中に異安心問題がおこったと  
云える。

おわりに  
以上、弁栄上人の『宗祖の皮

髓』の成立をめぐる、光明主義  
と浄土宗義との異安心問題を振

返ってみた。その当時の弁栄上人  
と光明会に対する宗門一般の反応

には、相当烈しい批判があり、そ  
れだけに反面、光明会の側にも革

新の気運が強く漲っていた。今日  
でも、光明会のある人の口から、

「宗祖の皮髓は、あれは弁栄上人が、  
浄土宗の僧侶用に一つの方便とし

て説いたもので、上人の真意では  
ない」という強い意見を聞くが、

その一方、かつては、異安心問題  
の中でも最も疑難の集中した「見

仏」問題を最近ではあまり表に出  
さなくなつて、光明会の別時念仏

会中に人前で自己の見仏体験を發  
表することを、誤解を招くおそれ

があるとして敢て禁止する傾向す  
らあると云う。そこに、創草期の

光明主義者達が、異端という冷た  
い攻撃の中で、必死に浄土教の現

代化という課題の実験を身を以て  
果していたあの清新さが、今日光

明主義を奉る人々に変らずに生き  
ているか、外ならぬ筆者自身が深

く反省を迫られる問題であります。  
また、宗門内にも、古くは、桐

生信暢氏の『邪義光明会の検討』や、  
宗務所の諮問に答えて仏教専門学

校の出した『光明主義研究序説』  
など、光明主義を『二祖三代の真

意を得たるものに非ず』と否定す  
る見解から、岸覚勇師の『浄土宗

義と光明主義』(13)のように、その  
時代の要求に応ずべき「随他扶宗

義」として積極的に容認して行こ  
うという傾向まであり、必ずしも

統一合意されてはいない。一般的  
風潮としては、光明主義の近代的

理論と、その信者の念仏実践行と  
には敬意を払いつつも、その神秘

主義的傾向に異和感を抱き、さり  
とて自ら旧来の宗学を革新する意

欲も薄い。かくて、本当の意味で

の統一をめざす相互研究や理解が  
学問的にも信仰的にも充分果たさ  
れないまま、でいるのが現状ではな  
いでしょうか。

今後とも、光明主義と浄土宗義、  
その問題が論じられる場合、いず

れにせよ、この『宗祖の皮髓』の  
占める位置は無視出来ないし。こ

の祖山の集いは、ある意味で、法  
然上人が大勢の天台の宗侶を相手

に自らの信仰を述べられた大原談  
議に比せられる重要性を負ってい

ると思われる。  
宗学が新しき第三期浄土教の興

行を目指して大きく革新する為  
は、好むと好まざるとに拘らず、

この光明主義を避けて通るわけに  
行かぬ。その意味から、多くの人

脈に富んでいる当研究所に、今後  
の重要な役割を期待するのは独り

私だけではあるまい。

(註)

(7) 「眞生」二六卷四〇号

昭和四二年八月

(8) 同二六卷四〇号  
昭和四二年十二月

(9) 同二卷二月「見仏意義(一)」  
大正十一年にはじまり、「見仏の要求」「見仏の理想と人類の生活」、「光明主義と異安心」、「見仏に就ての疑難」、「新宗教の出現と其の内容」、「光明主義の色々」、「宗門の信仰と其の布教に就いて」等々

(10) 「光明」第四三六号、この他に「現代の精神指導として宗来の真義を闡明し、之を民衆生活の根底となす」「化他五重は初心者への入信のために可成奨励すること」、他に附帯事項として「イ、本尊は三身即一の報身を本尊とすること、口伝道上是仏教の根本原理に矛盾する語(神など)を用いぬこと、ハ、安心については助け玉えを広き意味に解し、至心信樂欲生我國の内容を含めて説くこと、ニ、以上の申合せは不純の気分を以って宣伝せぬこと」などが取りきめられた。

(11) 「浄土教報」一八三七号、布教元老会議昭和五年一月二六日

(12) 「眞生」四卷四月号「光明主義と異安心」大正十四年四、五月

同 五卷十一月号「光明主義の色々」  
同 五卷十二月号「弁榮上人の七回忌に就て」大正十五年

(13) 『浄土宗義と光明主義』昭和十七年七月印刷発行は昭和三年三月 記主禪師鑽仰会

### 宝刀たれ

(『生活線上の宗教より』)

中野 尅子(善英) 上人

どんな正宗の銘刀でも

自分で自分を磨くことは出来ぬ。

だから砥石が入用です。

鋼鉄の身が 土砂の砥石に砥がれ、

自分より劣つたと思ふ軟土が自分を磨いて呉れる。

弱きものより救われ、小さきもの

よりも教えられる

だから、世の中はうまく出来て居る……………。

他を斬ることは上手でも

自分で自分を切つたことがありますか。

過去の銘刀が 今の赤鯛となつて捨てられている事がある。

魔剣となつて他を禍ひすること勿れ。

宝刀となつて世の鎮護、社会平安の神靈たらん。

## 行事報告

第三十回 鎌倉大仏さま

月夜の別時會 完全リモート開催

二〇二〇年十月二日(金) 十八時半

〜 三日(土) 六時

例年通りであれば、参加ご希望の皆様には鎌倉大仏の高徳院様にお集まりいただき、阿弥陀仏の御前にて、念仏、礼讃、散華行道、

法話など行ふ「鎌倉大仏さま月夜の別時會」ですが、二〇二〇年は

新型コロナウイルス感染症が発生し、行事においても感染対策を行う必要にせまられ、第三十回は高徳院様より完全リモート開催とし

て、一般参加は取り止め中継・配信という形で実施いたしました。

当日は、長野・法華寺住職の古田幸隆上人(眞生同盟常務理事)、観智院住職の土屋正道(眞生同盟主幹、観智院所属僧侶・眞生同盟事務局の諸澤正俊、酒井正空による四名で念仏、礼讃、散華行道、法話等を厳修し、その模様を観智院・眞生同盟のYouTubeチャンネルにてライブ配信、参加者の方々にはリモートでご視聴していただきました。



礼讃 散華行道



結願 挨拶

第五十八回 眞生同盟本部大会

二〇二〇年十一月十九日(金)十三時

～二十一日(日)十八時

本年の眞生同盟本部大会は新型コロナウイルスの影響に鑑み、一般参加者の時間を限定しての開催、また一昨年より併修していた第三回秋の文化祭は中止となりました。



多聞院 座談



石田上人 法話

当日は導師に、青森・楽宝寺の石田孝信上人(眞生同盟顧問)をお迎えし、念仏の指導を仰ぎ、ご法話を賜りました。

また三日目に新型コロナウイルスの感染者が増えたことにより、

最終日は一般参加を急遽取り止め、

完全にモートに切り替えましたこと

とで、参加者の皆様には大変ご迷惑をおかけいたしました。

深くお詫び申し上げます。

本部大会参加者

青森 石田 孝信

東京 土屋 正道

東京 中村 立道

東京 諸澤 正俊

東京 田中 典幸

東京 上田密記子

東京 大田 眞祐

千葉 服部 道子

埼玉 蘇田三千穂

埼玉 酒井 正空

東京 土屋 由恵

東京 土屋 遥

東京 土屋 法道

第一回 多聞院修行体験会

二〇二〇年 十一月十九日(金)

～二十一日(日)

眞生同盟本部大会開催中に初めての試みとして、姉妹寺院の多聞院にて、修行体験会を開きました。

浄土宗の日常勤行(読経)、礼

拝(五体投地)や礼讃(仏を讃え

仏の周りを散華行道)等の修行に

興味のある方々を対象にカリキュ

ラムを組み、指導員として眞生同

盟事務局である観智院所属僧侶が

担当。リモート参加希望の方のた

めに、ZOOMを使った配信も行い

ました。

当日 日程表

①十四時三十分～

仏教概論 諸澤正俊

②十六時～

日常勤行 諸澤正俊

二十日

①十三時～

礼拝 酒井正空



礼拝 酒井正空

②十四時三十分～  
礼讃 諸澤正俊  
③十六時～  
日常勤行 諸澤正俊  
二十一日  
①十三時～  
日常勤行 田中典幸  
②十四時三十分～  
写経写仏 田中典幸  
修行体験会参加者  
東京 木村 吉裕  
東京 手塚由莉奈  
埼玉 蘇田三千穂  
長野 福田 由貴



日常勤行 田中典幸



仏教概論 諸澤正俊

## 世界同時念仏会開催

～ Chanting Namu-Amida-  
Butsu Internationally ～

眞生同盟・観智院ではこれまで二十四時間不断念仏会を東京と京都の二ヶ所で毎年開催してまいりましたが、この度、不断念仏会で賛同・中継してくださっている道友の皆様呼びかけ、世界同時念仏会を開催する運びとなりました。各月で世界各地が中継の中心となつて、参加者はZOOMにアクセスして、同じ時間に念仏を一緒にお称えるオンライン参加型念仏会です。

主体となつて中継開催していただきました。

年間を通して、開催して参ります。開催日程は以下の通りです。世界同時念仏会中継予定

- 一月 インド・ネパール 仏心寺ブツダガヤ・カトマンズ
- 三月 ブラジル クリチバ日伯寺
- 五月 東京 増上寺二十四時間不断念仏会
- 七月 フランス ヨーロッパ仏教センター
- 九月 京都 清浄華院二十四時間不断念仏会
- 十一月 ハワイ 浄土宗ハワイ開教区

詳細日程はホームページをご覧くださいのうえ、ご確認ください

開教区が主体となり、第二回（ネパール時間一月二十九日十一時・日本時間一月二十九日十四時十五分）はネパールのカトマンズから曹洞宗僧侶の光明シエスタ氏が



第2回世界同時念仏会（ネパール）



第1回世界同時念仏会（ハワイ）

### 御礼

眞生同盟会員であり、お寺の漫  
画図書館常駐スタッフをなさって  
いる小島清一様より、多聞院へ以  
下の多大なる御寄進がございまし  
た。深く御礼申し上げます。

スタッフルームの机並びに椅子  
五具足・花  
仏殿塗の台  
会議用和風机 五個  
導師用座布团  
植木手入れ費用

### 眞生芳志感謝

眞生芳志を賜りまことにありが  
とうございます。至心に感謝申し  
上げますと共に今後もお支えのほ  
どよろしく願っています。

(481号以降)

◆金一封

阿川文正台下

◆金三万円

東京福西賢雄・新潟原久子

◆金二万円

神奈川 石黒毅・愛媛 桑村正博  
千葉大南龍昇・神奈川 高橋好

◆金二万円

東京 福田行慈・大阪 光善寺  
福岡 永江憲昭・東京 源空寺

東京 廣本榮康・東京 盛克史

三重 山下法彦・神奈川 王紅蕾

富山 小林照人・東京 浄正寺

東京 東岡和・栃木 今井俊宏

青森 遠藤聡明・北海道 松尾昭男

兵庫 三枝樹隆善・兵庫 金地院

埼玉 野上泰夫・長野 福田英宝

◆金六千円

神奈川 山靖子

◆金五千円

東京 武智公英・東京 飯塚和美  
神奈川 石川到覚・滋賀 久米秀慶

三重 大西弘士・秋田 加澤昌人

長崎 辻本良明・神奈川 川野誠

神奈川 青木章子・愛知 石川乘願

神奈川 鈴木尚子・大阪 内藤善啓

長野 福田哲也

◆金四千元

三重 中尾稔・滋賀 北條秀雄

◆金三千元

東京 加藤悦子・東京 森強  
岐阜 早川修司・東京 上塚芳郎

東京 遠藤幸子・埼玉 蘇田三千穂

千葉 鈴木悦朗・東京 宮木美知子

東京 佐川久美子

◆金二千元

三重 前島格也・埼玉 小嶋美江子

愛知 建中寺・兵庫 泉有彦

神奈川 石川洋典・寿美子

埼玉 柴鳳章・三重 大西弘士

埼玉 伊藤ゆみ子・埼玉 織戸恵子

東京 諸澤正俊・東京 田中典幸

埼玉 酒井正空・神奈川 青木章子

三重 楠木博子・青森 三浦幸子

群馬 山岡良子 (敬称略)

むだやのごとをいふ口いらぬ  
ただその口で南無阿弥陀仏

南無のかんといひわけよりも  
やはりかはりに南無阿弥陀仏

弁栄上人

松禅院念仏堂修繕事業  
浄財勸募第一回報告

480号において、「松禅院念仏堂修繕事業浄財勸募のお願い」をしましたところ、多くの方々からご浄財を頂戴いたしました。心より感謝申し上げます。

◆金一封

伊藤唯真 殿下  
八木季生 台下

◆金十八万二千三七七円

三重 慶藏院檀信徒

◆金十万円

大阪 森島米史郎・広島 野間 堯

◆金六万円

三重 前島格也

◆金五万円

東京 諸澤正俊

東京 戸松秀明・東京 浄正寺

大阪 中村法道・滋賀 溪 信子

◆金三万円

青森 鷹髯俊道・奈良 橋詰淳子

千葉 服部道子

◆金二万円

長野 古田幸隆・岐阜 早川静子

◆金一万円

三重 伊藤信夫

三重 山中教龍・東京 中村立道

東京 奥村京子・青森 石田孝信

神奈川 蓮勝寺・神奈川 吉川瑞浩

東京 洪 美珠・埼玉 糸原恒久

岡山 漆原宣隆・愛知 高橋宏文

岐阜 保井竹彦・東京 熊倉邦彦

愛媛 中村在徹・東京 久米晴彦

東京 北條雅道・神奈川 高橋好

静岡 黒澤龍司・兵庫 早川省二

三重 山中教龍・埼玉 町田唯真

京都 長澤博子・東京 野田弘子

東京 熊耳雅美・新潟 原 久子

茨城 長谷川静光・岩手 円光寺

神奈川 西浦珠未・三重 堀江明

宮城 東海林良雲・埼玉 蓮光寺

愛知 大善寺・群馬 稲村博道

三重 大西弘士・岡山 誓願寺

東京 宮木美知子・福岡 横溝瑠璃

東京 月影寺・愛知 高木宏昌

東京 小島清一

◆金五千円

東京 甘利直義・東京 谷口英夫  
神奈川 青木章子・東京 林真也

東京 廣田真一・三重 伊藤照光  
東京 阿部玲子・長野 平林つや子  
埼玉 蘇田三千穂・神奈川 昌繁寺

東京 桑原慎雄・東京 榊清純  
千葉 北島通子・京都 横山洋介

滋賀 中川英子・静岡 桑子文雄  
東京 福田正新・東京 吉田晶子

千葉 石黒悉・愛知 梶山和子  
東京 黒田盛之・敏広

兵庫 泉有彦・妙子  
東京 安田輝子・東京 林武則

東京 石竹智子

◆金三千円

千葉 成富良子・京都 清水サツ

新潟 桑山智恵・新潟 岡村明子

千葉 大信田洋子・東京 遠藤幸子

東京 大橋英和・東京 佐藤義一

東京 春山啓子・千葉 為谷豊子

大阪 八木俊雄・東京 河村政夫

東京 白山泰子・静岡 高田幸男

埼玉 桑名景子・福岡 本原信道

◆金二千円

東京 佐藤冬樹・京都 柳澤弘憲

新潟 水島則子・岐阜 早川修二

東京 大西健二・青森 三浦幸子

愛知 堀田正捷・東京 堀タイ子  
東京 松川直・神奈川 局洋次郎

富山 横川喜一・東京 石井珠子  
長崎 早田明生・神奈川 武川晃朗

◆金千円  
京都 岸名優里哉・滋賀 北條秀雄

奈良 堀田真介・千葉 櫻井宏信  
(敬称略)

ほぼ毎日、念仏・法話配信  
観智院ビデオ canchinvideo



携帯のカメラアプリを開き、上のQRコードにかざして下さい。YouTubeの観智院ビデオに繋がります。

http://canchin.net

行事予定

今後の行事についてはホームページからご覧ください。新型コロナウイルスの影響によっては、各行事の内容が変更になることがございます。

http://canchin.net